



## 第66回卒業証書授与式

3月6日(金)、第66回卒業証書授与式を挙りました。厳肅な雰囲気の中、卒業生は、仲間と別れる寂しさや、これから新たな道を歩いていく希望、家族への感謝など、様々な思いを胸に、式に臨んでいました。1・2年生も「3年生のために」という思いを秘めて、凜とした姿を見せてくれました。今回は「卒業式」「式後の3年生企画」「最後の学活」の様子と、「送辞」「答辞」の一部を紹介します。

## 「卒業証書授与式」「式後の3年生企画」「最後の学活」の様子



## 送 辞(抜粋)

先輩方はこれまで、いつもどんな時も「本気」で北中学校を引っ張り、「全力」で私たちを支えてくださいました。

シン・文化祭はパワー爆発の活動となりました。各カテゴリーが、レベルアップさせた発表・展示を創り上げたシン・探究。一階から響いてくる歌声が迫力を増し、きれいなハーモニーとなる合唱。当日、一番驚いたことは、合唱前の円陣です。コンクール前にもかかわらず、1組と2組が学年みんなで円陣を組んでいたからです。先輩方を尊敬しました。そして、有志発表。ステージを囲んで盛り上がったあの瞬間…。自分たちが楽しみ、自分たちの手で作り上げる文化祭そのものでした。

部活動では、ひたむきに努力することと、チームで強くなることを学びました。僕が一番心に残っているのは、駅伝チームでの取組です。夏のきつい練習、先輩たちと走るから乗り越えられました。一緒に県駅伝に出たくて、出たくて全力で襷<sup>たすき</sup>を繋ぎましたが、惜しくも2位。区間賞を取った先輩の涙、アンカーを力走した先輩の涙、僕も一緒に泣きました。それでも、最後はともに走り、支えてくれたマネージャーの先輩たちと笑顔でたたえ合うことができました。あの瞬間を忘れません。

どの部活も先輩方の想いを繋いで強くなります。

私は、生徒会執行部として先輩方が「本気」で、企画・運営し、支え合う姿を見てきました。春休みに専門委員長とともに話し合いをしたこと、覚えていますか。先輩は、いつも北中生のために動いてくださいました。リーダーが導き、学年で支える姿を、私たちは受け継いでいきます。

北中生への叡智と愛がつまった先輩方との日々を終える今日は寂しいです。しかし、この思い出を胸に、これからの道を駆け抜けてください。夢に向かい羽ばたいてください。私たちは、ここ北中から応援します！先輩方の残した「本気」を受け継ぎ、北中学校の生活を「全力」で楽しむことを誓い、送辞といたします。今まで本当にありがとうございました。

## 答 辞(抜粋)

「時よ、止まれ。」

まさか、私たちに「あたりまえ」に訪れるはずだった「友との最後の日々」が、こんなに突然、消えてしまうことがあるなんて。私は まだ この北中学校の生徒でいたいです。時間が、私たちを待ってくれないことは わかっているのですが、祈る気持ちでこの言葉をつぶやきます。

「時よ、止まれ。」

今、ここに立つと、背中に、最愛の71人の仲間の思いと、家族の愛と、先生方のまなざしと、後輩たちの応援と、この学び舎でのあふれるほどの思い出を、強く、強く、感じます。それは、私たちの「生きてきた証」です。

思い出すのは、3年前の春。それぞれの小学校から入学してきた私たちは、新しい環境、新しい先生、新しい仲間戸惑い、はじめは心も身体も窮屈でした。難しかった。不安だった。中学校という、新しい世界が。

たったふたつ年上の先輩方の堂々とした姿が、高く 高く 遠い存在に感じ、1年生の私たちにはまぶしすぎて、ついていけるので精一杯の毎日でした。

そんな、真面目過ぎた私たちを 脱皮させてくれたのは、2年生の「修学旅行」でした。009を中心として、「自分たちの手で この修学旅行を成功させる」と決めた私たちは、緊張と期待と興奮で北中を出発しました。全員が「脱皮」を目標に、それまでの自分を脱ぎ捨て、自分たちの力で やり遂げるよろこびと、仲間とつながりあうことの楽しさを知りました。みんなで大笑いした「一発芸大会」。仲間を思いやり、自分のことよりも仲間の喜びを考えられた「京都一日自主研修」。私たちは見事に脱皮して「ほんものの仲間」になりました。

そして、一番、心に残っているのは、合唱です。思いはあっても、なかなか理想を形にすることができませんでした。何度も壁にぶつかり、泣き、笑い、怒り、喜び。たくさんの感情を揺さぶりながら、作り上げた合唱。私たちは、互いに、信じあい、愛し合うことで初めて、歌声がひとつになることを知りました。

この学び舎での思い出を心に描くと、みんなの笑顔があふれてきます。生徒も先生も、みんな笑っている。やさしい笑顔で。なんてあたたかく、なんてまぶしく、なんてしあわせな世界なんでしょう。私たちは、こんな 愛のあふれる世界の中で、今まで生きていたのです。

私は、北中学校の生徒で、ほんとうにしあわせでした。お別れの、時です。

15歳の私たちが、たぐり描いた未来図は、まだ拙く、頼りない「未来図」です。けれど、私たちには この学び舎で作上げた、たくさんの思い出と、仲間とつなぎあった、強く、あたたかい絆と、先生方から教えていただいた「信頼されることの喜び」、そして、いつも、どんな自分でも注ぎ続けてくれる「家族の愛」を心に刻んで、私だけの「未来図」を、必ず作り上げていきます。今はまだ「小さな花びら」だとしても、私たちは「ひとり」ではありません。

「心動く ～学び 活動 仲間～」

3年間、私たちの道しるべとなった学年目標。この言葉を胸に、今、前を向きます。

「時よ、進め。」

時間は、二度と、戻ってきません。この、大切な真理を知った私たちだからこそ、出会いのための別れと信じて、今、私たちは、この最愛の北中学校を旅立ちます。